



成蹊大学
ボランティア
支援センター

２０１９年度

年次報告書





目　次

巻頭言 …… 1

第Ⅰ章　活動報告 …… 3

第１部　2019 年度総括

第２部　2019 年度個別事業・プロジェクト報告

1)　年間テーマ事業
（オリンピック・パラリンピックとボランティア）

2)　東北復興創生プロジェクト

3)　学生サポート事業

4)　啓発事業

5)　交流・きっかけづくり事業

6)　地域貢献事業

7)　ネットワーク事業

8)　その他

第Ⅱ章　活動実績 …… 23

1）活動実績一覧

2）相談実績

3）成蹊ボランティアプログラム実績

4）社会活動支援奨学金実績

5）学内募金活動実績

6）発行物一覧

7）報道等採録集

第Ⅲ章　資　料 …… 33

1）構成員一覧

2）関連規則

巻 頭 言



成蹊大学長　北川　浩

2020 年は東京オリパライヤーとしてスポーツボランティアに大きな期待が寄せられる中で、成蹊大学としても 2018 年度から徐々にスポーツボランティア育成・活躍の雰囲気を醸成してきました。2019 年度にはラグビーワールドカップのボランティアに貢献した学生の皆さんも大勢いたことと思います。

しかしながらその期待された 2020 年は、新型コロナウイルス感染症拡大によって一瞬にして暗転してしまいました。東京オリパラは 1 年延期となり、また感染予防の見地から人が集まるようなボランティアの企画も一切行えなくなりました。とくに医療や介護などの本当に困っている分野に手を差し伸べたくても、スキルの面からも安全性の面からもとても学生が手を出せるような分野ではなく、もどかしい思いをされているボランティア登録学生のみなさんも多いことと思います。

しかしどんな逆境の中でも、「誰かの役に立ちたい」「困っている人を助けたい」という気持ちさえあれば、できることは必ずあります。いま多くの大学がオンライン授業主体となる中で、たくさんの学生が言い知れぬ不安や閉塞感と闘っています。自分自身の感染・自分が人に感染させる可能性への不安や恐怖、就職活動や将来に対する不安、友だちに会えない・友だちができないことで味わう閉塞感などです。

例えばこのような学生たちの不安や閉塞感を和らげるようなオンライン企画をボランティアで運営することは、大学全体にとっても非常に有意義なことです。すでに一部の活動の萌芽がありますが、翌年度に向けてこのような活動をもっと大々的に盛り上げていくことに力を尽くしたいと考えています。

「感染が終わるまで待っていれば昔に戻れる」という考え方ではなく「いま自分にできること」を全力で行うことが大切だと思います。多くの学生のみなさんの知恵と力を結集し、未曽有の難局の中でも豊かな学生生活が確保できる大学でありたいと切に願っています。いっしょに力を合わせてがんばりましょう。



成蹊大学ボランティア支援センター所長　光田　剛

この報告書は 2019 年度の年次報告書ということで、2019 年度の企画・行事などの報告を掲載しています。2019 年度末にあたる 2020 年の 2～3 月には新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出始めていました。社会活動支援奨学金受給団体の報告会や東北プロジェクトの報告会も中止になりましたし、南相馬市に出向いて報告することになっていた内容も書面での提出になってしまいました。この後も、現在に至るまで、学生・教職員のボランティア活動も、センターの支援活動も新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けています。人と人との直接のふれあいが断たれたとき、人と人が直接にふれあうことを当たり前として成り立っていた活動がどれほど脆かったかを私たちは思い知ることになりました。しかし、人と人が直接ふれあえないからと言ってボランティアの必要がなくなったわけでも、ボランティアへの思いがなくなるわけでもありません。むしろそういう状況だからこそ切実に必要とされているボランティアも多かったはずです。この教訓・反省を踏まえながら、これからも前へと進んでいきたいと決意を新たにしています。

第Ⅰ章

活 動 報 告

2019 年度活動報告

本学では、ボランティアについて、本学の教育理念に掲げる学生の「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」に資する教育的目的も併せ持つものとして捉えている。

ボランティア支援センターでは、この考えをもとに学生および教職員が一体となり、ボランティア等の社会貢献・地域交流活動を推進し、これらを支援することを目的に様々な事業を展開してきた。

2019 年度の取り組みをまとめるにあたり、本章では第 1 部で総括を、第 2 部では個々の事業・プロジェクトごとに報告する。

第 1 部　総括

ボランティア支援センターは 2014 年の開設から丸 4 年が経過し、5 年目を迎えた。

大学では、多くの学生が 4 年で卒業し、就職や進学など次の段階に進む。

センターの歩みを学生に例えると、2014 年に入学（開設）した学生（センター）も、4 年を経て、次の段階に進むときである。

一言でいうならばスタートアップの段階からレベルアップの段階へ。

これまでの積み重ねによって得られた知見を活かした、「内容の充実」が次なる目標である。

ボランティア支援に対する考え方も適宜見直されてきた。

センター開設以来取り組む「学生にボランティアについて知ってほしい、少なくとも支援の制度があることを知ってほしい」という段階から、それらを堅持しつつ「どうやってボランティアを持続的に定着させていくか」という次の段階に進み、支援の在り方を模索しながら展開してきた。

2019 年度の新規事業「成蹊ボランティアプログラム（ＳＶＰ）」は、これから進むべき次の展開を象徴する取り組みである。

ボランティアを、「知る」ところから「実践」するところまで一貫してサポート（エンカレッジ）するプログラムとして開発した。



また、センターの行事などを学生がサポートする「ボランティア支援センター学生サポーター制度（ボラサポ）」を試行的にスタートさせた。

このように次の段階を意識し、取り組みを続けるセンターであるが、刻々と変化する社会課題に対して柔軟性や機動性といったボランティアの特質を踏まえ、これまでの実績を土台に、学生自身がもつ自主的・自発的を尊重した支援ができるように努めた。

【テーマ事業】

テーマ事業は、その時々の社会からの要望や、学生のニーズにあわせて、年度ごとに設定して取り組む事業である。

2019 年度は「オリンピック・パラリンピ

ックとボランティア」をテーマとして取り上げた。

具体的な報告は第 2 部の個々のプロジェクト報告に記載するが、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の認証を得た「特別講演会」（主催：成蹊大学）では、学内はもちろん、市民のみなさんをはじめ、学外から多くの方々にご参加いただいた。



間接的なボランティア支援であるかもしれないが、大学の社会的役割を担う機会として、開催することができたのは大きい成果と考えている。

【研修（学内）から実践（学外）につなげる取り組み】

ボランティア支援の一環として、これまでも多くの講習会などを学生向けに実施してきたが、課題のひとつとして、講習を受けた「受講したという事実をつくる」段階で終わってしまい、そのあとのボランティア活動の実践につながっていない（フォロー体制がつくれていない）ことがあげられる。

そこで、講習会の受講からボランティアの実践までをワンセットとして提供し、ボランティアの実践を少なくとも一度は体験する、というところまで学生が進めるような動機付けをする目的で開始されたのが、「成蹊ボランティアプログラム（ＳＶＰ）」である。



本プログラムの開発・導入によって、学内で学んだことを、（例え体験であったとしても）学外での実践につなげる流れを生み出すことができ、参加学生からは、知識の取得と実践をとおした理解により、考えが深まったという趣旨の声も多く寄せられた。

【自発的な活動を応援する取り組み】

センターでは、専門職であるボランティア・コーディネーターが常駐し、個別・グループなどの相談対応などに応じている（開室時間：平日 9：00～17：00）。

来室者数はセンター開設以来一貫して増加し、前年度 544 人だった来室者数は、3,217 人（昨年度比 591%）と急増する実績となった（p.26 参照）。

この急増の背景には、成蹊ボランティアプログラム（ＳＶＰ）の開始が与えた影響が大きい。

プログラムによって、ボランティアとして活動現場に赴く学生が増え、コーディネートや相談のニーズが高まったことが、来室者数の増加につながっている。

また、2019 年度にはじめて製作・発行し

た「ボランティア・ガイドブック」は、新入生へ入学時配付資料として全員に配付したほか、2年次以上の学生にも適宜配付した。

地道ではあるが、認知度向上を目指して取り組んだ成果が現れつつある。

相談内容は多岐にわたり、文系・理系問わずすべての学部学科および研究科がワンキャンパスに設置されている本学の特徴を示しているともいえる（p.26 参照）。

2019 年度は、新たな動きとしてボランティア活動を主たる目的としない既存の学生団体（部活動）による、ボランティアの実践コーディネートを行った。

例えば、体育会男女ソフトボール部によるパラスポーツ大会運営補助（p.9 および p.32 参照）や、文化会混声合唱団による地域の高齢者者施設へ訪問講演（p.11 参照）などがあげられる。いずれの活動も、ボランティアが、学生のなかで広まりつつある証左であろう。

このような幅広い学生の取り組みを支えるため、ボランティア・コーディネーターは、専門性を生かした支援はもちろん、研修・研究や新たなネットワーク構築を通して、新たな知見や技術を積極的に取り入れるように努めている。

また、学生の自発的な社会貢献活動や調査研究を経済的な側面からも応援する「社会活動支援奨学金」を設けている（返済不要・給付型）。

この奨学金の最大の特徴は、経済的な給付を行うだけではなく、対象となった活動や調査研究を全般的にサポートすることである。

活動を行うにあたり事前準備（計画づくり・連絡調整等）や学修（社会問題の調査・課題の明確化等）そして、活動を終えた後の事後の取り組み（体験の言語化、振り返り・報告書づくり等）も含めた「併走型奨学金」制度を目指した。

他にも多様な支援策を用意しているが、何より大事にしたいのは、「学生のボランタリーな精神や意欲を尊重していく」ことである。

言うまでもなくボランティア活動は、他者から命令されて行うものではなく、学生自身の意思や意欲を最大限に尊重されるべきで行為である。



活動相手との適切なコーディネートやアドバイスを通して、活動が学生と活動先の双方にとってよきもの（win-win）となるように、引き続き心がけて取り組みたい。

【活動を通した人材育成への取り組み】

東北復興創生プロジェクトは、福島県南相馬市の過疎化対策をテーマに、資源調査とＰＲ企画立案に取り組むこととした。

一見、単発のスタディツアーと思われがちなプロジェクトであるが、実際には事前学修・実地調査・帰校後の調査結果の分析や検討を経て、年度末にはその企画を具体化させる１年がかりのプロジェクトである。

このプロジェクトを通してチームワークやコミュニケーションといった対人スキル

はもちろん、現地訪問や成果物の作成、学生視点での提言をとおして、本学が掲げる「本物に触れる」、「体験して学ぶ」ことを重視し、豊かな感性を育む教育そのものである。

また、他大学のボランティアセンター等によくみられる、学生スタッフ制度についても導入に向けた検討を継続してきた。

特に、ここ数年は東京 2020 大会に向けて取り組む学生や、先述の東北復興創生プロジェクトに関わる学生など、自ずと「ネットワーク」感のようなものが生まれていた。

そこで、そのような意欲的な学生の中から、ボランティア支援センターの「学生サポーター」という形で学生数名に協力してもらい、センター主催行事等の際には企画・運営に携わってもらうこととした。



サポーターとして活動する学生のなかには、特定非営利活動法人ユースビジョンが主催する「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2019」および「大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2020」へ参加するなど、それぞれのスキルを高め合う様子などがみられるようになってきており、2019 年度の試行を経て、2020 年度は学生スタッフとしてさらに発展的に制度を整える予定である。

その他にも、ユニバーサルマナー検定やスポーツボランティアの基礎を学ぶ研修会の実施、ボランティアを中心とした地域・社会貢献活動に取り組んできた。

【最後に】

最後に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響にも触れておきたい。

2019 年度の集大成の時期ともいうべき年度末（2020 年 1～3 月）は、全面的な計画見直しを余儀なくされた。

特に 3 月にはボランティア支援センターの年間活動報告会を予定し、学生たちによる 1 年間の活動実績や学びを、多くの方々の前で発表・共有する機会をつくるべく準備を進めていたが全面的に中止せざるを得ない状況となった。

感染拡大のため自粛となったこの期間は、それぞれが社会課題に関する報道を目にしたり、本や新聞を読んだり、時にはオンライン上で友人知人とのやりとりを通して考えを巡らせ、思いを馳せつつ過ごしていることだろう。

特に、ボランティアの大事な要素である「公益性」や「社会課題の解決」について、「誰かのために自分に何ができるのか」「今、何が社会で問題となっているのか」…これまで私たちの当たり前と思えた日常・生活を突如として一転させた事態だからこそ、改めて見つめなおす時なのかもしれない。

本稿が公表される頃、少しでも状況が落ち着いていることを願いつつ、強い思いや意思を活動や実践につなげるように、これからも支援していきたい。

第 2 部　個別事業・プロジェクト報告

第 2 部では、個々のプロジェクトごとに報告を行う。

ボランティア支援センターでは、その他を含め 8 つの事業・プロジェクトに区分している。

事業区分は以下のとおりである。

①年間テーマ事業
②東北復興創生プロジェクト
③学生サポート事業
④啓発事業
⑤交流・きっかけづくり事業
⑥地域貢献事業
⑦ネットワーク事業
⑧その他

①の年間テーマ事業は、その時々の社会からの要望や、学生のニーズにあわせて、年度ごとに設定して取り組む事業である。

2019 年度は「オリンピック・パラリンピックとボランティア」をテーマとして取り上げた（p.8 参照）。

その他の事業では、2019 年度から試行展開した「ボランティア支援センター学生サポーター制度」の一環として、学外組織が実施する学生スタッフセミナーへの出席について報告する（p.22 参照）。

センターでは、プロジェクトごとに「ポイントと狙い」を定めて取り組んでいる。

ポイントとして伝えたいことは何か、また、プロジェクトの意図は何なのか。これらを明確にすることで、よりボランティア支援に有用なプロジェクト展開を目指すためであり、プロジェクトの成果を検証する際の評価軸としての意味もある。

また、各報告では「事例」や「一例」として、多くの事例のうち、紙面の都合でごく一部のみを報告している場合もある。

センターで取り組んだ事業の全体像や、相談対応実績などは、第Ⅱ章「活動実績」（p.23 参照）も、あわせてご参照いただきたい。



1)　テーマ事業「オリンピック・パラリンピックとボランティア」－①

東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア特別講演会

〈 ポイントと狙い 〉

○東京2020大会が一過性のイベントで終わるのではなく、大会ビジョン・レガシーコンセプトを伝え、参加者間で共有することで2020年以降に続く共生社会の実現につなげていく。

日　時　11月15日（金）15：00 ～ 16：30

場　所　本館大講堂

参加者　75名

対　象　東京2020大会ボランティアに関心のある一般・本学学生・教職員

登壇者　二宮 雅也氏

・日本スポーツボランティアネットワーク理事

・文教大学人間科学部准教授

内　容
・東京2020大会が終わりではなく、むしろ2020年からはじまる「レガシー」を意識することの重要性
・大会ボランティアと都市ボランティアの説明
・過去大会でボランティアとして活動した方のその後
・日本が注目すべき「パラリンピック」について



特　記　公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会「東京2020応援プログラム」認証プログラムとして実施した

当初予定されていた日程で、大会まで1年を切った2019年11月。ボランティア活動という視点から、東京2020大会後の日本における共生社会の発展と多様で豊かなボランティア活動の可能性を考えるために開催した。

講師からは、前回の東京大会に続き、同じ都市で2度目となるパラリンピック開催は史上初であることを踏まえ「東京2020大会は歴史の上にあり、通過地点である。だからこそ、次を見据えて行動することが大切である」という講演があった。このことは、まさに本講演の狙いとするところであり、東京2020大会後からむしろはじまることを意識づけるきっかけとすることができた。

1)　テーマ事業「オリンピック・パラリンピックとボランティア」－②

障害者スポーツボランティアの支援

〈 ポイントと狙い 〉

○東京2020パラリンピックにむけて注目が高まっている「障害者スポーツ」をとおして学生および教職員のボランティア等の社会貢献・地域交流活動を推進し、これらを支援する。

一例　グランドソフトボール大会運営支援の学生ボランティアコーディネート

日　時　11月3日（日）

場　所　武蔵野中央公園

対　象　【活動先団体側】
東京都グランドソフトボール連盟

【本学学生側】
成蹊大学(男子･女子)ソフトボール部



内　容
・パラスポーツの一種である「グランドソフトボール」の全国大会に向けた予選大会の運営にあたり､東京都グランドソフトボール連盟より運営支援ボランティアを募集したい要望を受けた。

・先方団体も初めての学生募集ということで､本学ボランティアコーディネーターが活動内容や募集要項の作成もアドバイスした。

・成蹊大学ソフトボール部へ打診し、事前打ち合わせ・研修も含めて支援を行い、当日を迎えることができた。本学学生が中心となり大会運営を行い、盛会のうちに終えることができた。

東京2020大会におけるパラリンピックでは、2度目の開催となる史上初めての都市であり大会として注目を浴びている。

ボランティア支援センターとしても、2020年以降に続くレガシーとして「共生社会の実現」を掲げ、オリンピック・パラリンピックとボランティア関連事業に取り組んでいる。

2019年度は前年度に引き続き、グランドソフトボールやボッチャ、その他障害者スポーツの各競技団体との交流・ボランティア活動や、中間支援組織の機能を有する公益財団法人東京都障害者スポーツ協会等との連携に努めた。

また、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との連携により、都内各所の特別支援学校を拠点に取り組まれている都立学校活用促進モデル事業の運営ボランティアに本学学生が参加するなど、ボランティア活動をとおして共生社会の実現にむけて実践・学びを得るための機会づくりに取り組んだ。

2)　東北復興創生プロジェクト

「東北と日本の未来プロジェクト in 南相馬」現地訪問

〈 ポイントと狙い 〉

〇東日本大震災を「東北の問題」だけではなく、日本全体の問題として考える。
〇さまざまな社会問題を「じぶんごと」として捉え、問題に対し自発的にアクションを起こすことのできるきっかけを提供する。

日　時　8月5日(月) ～ 8日(木)

場　所　福島県南相馬市

参加者　15名

対　象　本学学生、引率教職員

内　容　南相馬市地域課題解決調査研究事業の補助金を活用し、南相馬市の課題を見つけ、解決のための資源調査（まち/自然/環境、ひと）を実施した。



東北復興創生プロジェクトは2015、2016年に実施した東北復興スタディツアーの後継として始まったプロジェクトで、6月のオリエンテーションから始まり、現地訪問、課題解決策検討、プレゼンテーション作成、3月の成果報告会と長期間に亘るものである。

2019年度は「東北と日本の未来プロジェクト in 南相馬」と題し、南相馬市地域課題解決調査研究事業の補助金を活用し、福島県南相馬市で活動を行った。

参加学生は南相馬市の課題の一つである過疎化・高齢化に焦点を当て、関係人口を増加させるため、全国の大学向けのPR媒体を制作する(①)。ロボットテストフィールドがある環境を活かし、「ドローンの聖地」としてアピールするための事業提案をする(②)。という2つの目標を立てた。

①に関しては南相馬市のPRパンフレットを作成し、500校の大学ボランティアセンターとその担当課に送付した。さらに、「野馬追」「食」「自然」「ダイジェスト版」の4本の動画を作成し、SNSでのPRを図った。②に関しては「ドローンを活用した事業提案」「廃校を利用したドローン学習事業と宿泊施設」という事業を提案し、成果報告会のためのスライドも作成した。

成果報告会は3月13日（金）に南相馬市で、そして3月26日(木)に本学で行う予定だったが、コロナウイルス感染拡大防止のために両日とも中止となった。学生が作成した事業提案のスライドは発表の音声を入れて動画にし、成果報告書と共に南相馬市に提出し、本学のStreamに上げてプロジェクトを終了した。

3)　学生サポート事業－①

ボランティアに関する相談支援

〈 ポイントと狙い 〉

○学生および教職員のボランティア等の社会貢献・地域交流活動を推進し、これらを支援するために適宜相談に応じる。
○大学生ならではの特技を活かした地域貢献活動を行うことで、活動の新たな視点を持たせる。

事例 混声合唱団の吉祥寺ホーム訪問

日　時　12月21日（土）　14：00 ～ 14：50

活動先団体　高齢者総合福祉施設吉祥寺ホーム

参加者　混声合唱団部員17名

内　容　本学の混声合唱団から相談を受け、近隣の高齢者総合福祉施設吉祥寺ホームでミニコンサートを開催した。
混声合唱団のリーダーには、選曲のアドバイスから訪問時のマナーなどを丁寧に伝え、利用者の方に喜んでいただけるような活動を行った。



ボランティア支援センターが取り組む平常時事業の中で最も力を入れている「相談支援」は、専門職であるボランティアコーディネーターが常駐し、対面でのやりとりに加え、電話やメールにて随時行われている。

相談にはボランティア受け入れ団体からのボランティア募集の相談と、学生からのボランティア活動の相談の2種類がある。受け入れ団体からの相談に関しては、担当者に詳細な聞き取りを行い、学生が安全に活動できるかを判断し、募集の受け入れを行っている。学生からのボランティア活動相談は、「何かしたい」という漠然なものから、取り組みたい社会問題のテーマは決まっているが、実際にどう活動すればよいかわからないという相談まで様々なものがあるので、コーディネーターは時間をかけて対応を行うことを心掛けている。

2019年度は相談が3,000件以上あったのだが(p.26参照)その中で、課外活動を活かしたボランティア相談が2件あった。1つは混声合唱団が福祉施設などでのコンサートを行いたいという相談で、もう一つは成蹊ボッチャ部の活動を知った地域からの「利用者にボッチャを教えて欲しい」という相談だった。

どちらの活動も継続的な地域貢献に繋がる活動になり、成蹊ボッチャ部は月に１度、混声合唱団は不定期に地域で活動を行っている。

3)　学生サポート事業－②

成蹊ボランティアプログラム

〈 ポイントと狙い 〉

○ボランティアを、「知る」ところから「実践」するところまで一貫してサポート（エンカレッジ）する。

一例　子どもへの学習支援ボランティア



日　時　7月1日（初回ガイダンス）～
9月27日（振り返りノート提出）

場　所　事前ガイダンス・演習等：学内
ボランティア先：主に埼玉県内

参加者　6名

対　象　本学学生

協力団体　一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク
（ボランティアの受け入れ・事前指導等プログラム全般）

内　容　第１回　注意事項などガイダンス
日時：7月1日（月）12：30 ～ 13：00
場所：ボランティア支援センター（本館１階）
講師：久米　隼（ボランティア・コーディネーター）

第２回　学習支援ボランティア（演習形式）
日時：7月10日（水）18：20 ～ 19：30
場所：1号館211教室
講師：皆川 佳菜恵氏、横田 舞氏（協力団体担当者）

第３回　【学外活動】ボランティア実践
期間：～ 8月31日までの間に最低１回

このプログラムは、成蹊大学ボランティア支援センターがオリジナルで開発し、2019年度からスタートした。

分野・領域を幅広く設定し年間をとおして全10プログラム開講し、登録学生はのべ136名となった（参照：第Ⅱ章活動実績）。

特に積極的に参加した学生には、その意欲を称え表彰・記念品贈呈を行った。

プログラム終了後も継続した活動やさらに発展的に展開した事例報告も寄せられているほか、プログラム終了後もボランティアとして活動を行うなど期待していた以上の成果が表れている。

3)　学生サポート事業－③

社会活動支援奨学金制度

〈 ポイントと狙い 〉

〇学生の社会性の向上および人格形成の促進寄与することを目的とする。
〇学生と教職員が一体となって行う社会貢献、調査研究活動等に対しての資金援助と活動に関する
**　する助言を行う。**

事例 社会活動支援奨学金 説明会



日　時　① 4月24日（水）
② 4月25日（木）
いずれも12：30 ～ 13：00

場　所　① 本館1階会議室C
② ボランティア支援センター

参加者　26名

対　象　本学学生

登壇者　前年度受給学生（学生有志、TFT@seikei）

内　容　・社会活動支援奨学金制度の概略、出願の際の注意事項等の説明
・前年度受給団体（学生）による事例報告
・質疑応答

備　考　各団体受給金額等は「第Ⅱ章活動実績」(p.30参照)に掲載
年度末に予定していた報告会は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

社会活動支援奨学金制度では、地域貢献、調査研究活動等を行う学生（個人・団体）に対し、上限20万円（但し、増額給付の場合あり）の奨学金を給付している（p.36参照）。本センターでは出願時の活動計画立案、予算計画等に関する助言から始まり、活動中における相談対応、活動終了後の報告書作成を含む振り返り等、資金面のみならず全面的な支援を行っている。

毎年、4月の第一次募集開始の時期に合わせて説明会を行っている。ここでは、社会活動支援奨学金制度の概略、注意事項だけではなく、制度を利用した活動のイメージを持ちやすくするため前年度受給団体学生からの報告も行った。同時期に6号館1階ふらっとコモンズにて前年度のすべての受給団体・個人による活動報告パネル展示を行った。来校者の目にも留まるような場所に設置したが、時より熱心に見入っている姿も見受けられた。

4)　啓発事業－①

ユニバーサルマナー検定（3級）

〈 ポイントと狙い 〉

○共生社会実現に向けての基礎的な知識を学ぶと共に、様々な方の視点に立って考え、行動するきっかけを提供する。



日　時　【3級】2回開催
①5月25日（土）10：00～12：30
②11月2日（土）10：00～12：30
※10月12日（土）を予定していたが大型台風接近により延期し代替日を設けて実施した。

場　所　①大学8号館101教室
②大学8号館303教室

参加者　①36名　②39名（武蔵野地域連携セミナー受講生含む）

対　象　本学学生、教職員

講　師　畠中梨絵 氏（一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会）※両日とも

主　催　一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会

運　営　株式会社ミライロ

内　容　講義・グループワークによる研修

備　考　成蹊ボランティアプログラムの一環として実施し、修了者には受講料を全額補助した。

2017年度から、本学を会場にユニバーサルマナー検定を実施している。高齢者や障がい者など何らかの支援が必要な方に対して、さりげない接し方やそのマインドを学ぶことができるとあって大変好評であったため2019年度も引き続き実施した。なお、第2回は「武蔵野地域連携セミナー」（光田剛所長担当）の受講者が授業の一環として受講した。

2019年度は成蹊ボランティアプログラムのうち「ユニバーサル社会を考える」として、事前指導、検定、ボランティア体験の一連のプログラムとして実施した。（p.28参照）5月25日実施の検定前のガイダンスでは、大山真実氏（株式会社ミライロ）にご協力いただき、ご自身のボランティア体験や共生社会についての講話をいただいた。11月2日実施の検定前には点字キッドを用いて名刺づくりをした。ボランティア体験では、近隣にある吉祥寺ホーム等の施設に赴き、利用者様との交流やイベントの補助等を行った。

4)　啓発事業－②

年間を通した「トークサロン」の実施

〈 ポイントと狙い 〉

〇ボランティア募集団体と、参加したい学生・教職員をつなぐため、直接話ができる機会を創出する。
〇幅広い活動を紹介するために、幅広い分野領域を題材に開催し、参加学生は自身の関心のあるテーマに気づくことを促す。

日　時　通年で計５回実施
いずれも12：30 ～ 13：00

参加者　のべ77名

対　象　本学学生・教職員

形　式　各回少人数で実施。ボランティア・コーディネーターによる司会進行のもと、前半は登壇者による活動紹介・話題提供が行われ、その後、登壇者と参加者とが直接、質問や相談などコミュニケーションをはかる。
参加者は昼食持参可とし、なるべく柔らかい雰囲気となるよう意識する。



内　容　2019年度は以下の分野を題材に取り組んだ。

□東北・復興創生　　□学習支援ボランティア
□スポーツボランティア　　□環境ボランティア
□海外ボランティア

ボランティアを募集したい団体と、参加したい学生・教職員とをつなぐ場として、学生の昼休みの時間帯に「トークサロン」と称した小規模のイベントを通年不定期で実施した。

特に2019年度は学生の関心も高い題材を中心に企画を立案した。

あえて少人数で実施し規模を抑え、柔らかな雰囲気で行うことで学生の疑問などにも丁寧に答えられるように工夫している。

例年と同じ傾向ではあるが、題材によって想定を大幅に超える学生の参加があるなど、センター内のセミナールームには入りきらない状況も見られた。

ボランティアに関心のある学生が増えているため、より収容キャパシティの大きい教室等へ変更を生じる必要もある一方で、少人数・小規模ゆえのメリットをどのように両立させていくか、今後の運営については検討していくことが必要であろう。

5)　交流・きっかけづくり事業－①

成蹊ボランティアまつり2019

〈 ポイントと狙い 〉

○【学生】ボランティア活動や社会貢献活動（ソーシャルアクション）への関心を喚起し、活動に関わるきっかけを提供すること。

【団体】ボランティア活動や社会貢献活動をしている学内外の団体等が、イベントを通じて出会い、以後に続く交流を創出するきっかけを提供すること。



日　時　6月19～20日（水・木）
18：30～20：00

場　所　1日目：カフェ＆ホールCOMMichi
2日目：６号館301教室

参加者　のべ185名

対　象　本学学生、教職員、一般市民

協力団体　【学外】本宿太鼓 鼓鳩、星の風のカフェ、ＮＰＯ法人ＣＦＦジャパン、学生団体ＦＵＭＩＤＡＳＵ、ＮＰＯ法人スープの会、ボランティアセンター武蔵野（社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会）、ＮＰＯ法人ウィメンズアイ、一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク（アスポート学習支援）、一般社団法人CIEE国際教育交換協議会（ＣＩＥＥ ＪＡＰＡＮ）、ＮＰＯ法人good ！

【学内】成蹊大学ボッチャ部、成蹊学園ブックセンター（紀伊國屋書店）、成蹊学園けやき循環プロジェクト、TFT@seikei、学生ボランティア本部（uni.）、武蔵野シティフットボールクラブ×成蹊大学応援プロジェクト、MOMOGorinプロジェクト、手話サークルMint

（合計　18団体・順不同）

内　容　○1日目：ブース出展形式で、各自が説明を聞きたい団体のブースへ赴き、自由に説明を聞く。

○２日目：ワークショップ形式で、NPO×学生でボランティアのアイデアを出そう！をテーマに取り組んだ。

ボランティアを募集する活動団体と学生、もしくは活動団体どうし・学生どうしの交流を促進するため、名称や形式を変えながらも「成蹊ボランティアまつり」を開催している。

2019年度は、これまで以上に「まつり」のイメージにあわせてアクティビティを増やすなど「参加型」のイベントとなった。

また当日は近隣の幼児や小学生など子どもたちの様子もみられるなど地域の一般市民のみなさんの参加も多く見られた。

5)　交流・きっかけづくり事業－②

秋のボランティアウィーク

〈 ポイントと狙い 〉

○学生に対しボランティア活動の普及・啓発を行い、ボランティアに興味をもつきっかけを与える。

日　時　10月10日（木）～17日（木）

場　所　ボランティア支援センター他

参加者　186名

対　象　本学学生、教職員

内　容　一週間を通し、様々なジャンルのボランティアに関する活動や研修などを日替わりで行った。

・「パラスポーツ（ボッチャ）体験会」
・防災・減災イベント
・ユニバーサルマナー検定3級(延期)
・おにぎりアクション
・ワークショップ「SDGsとボランティア」
・ペットボトルキャップ回収プロジェクト



新入生や在学生に対しボランティア活動を啓発・普及するため、10月13日の国際防災デーと10月16日の世界食料デーに合わせ、10月10日から1週間に亘り「秋のボランティアウィーク」を開催した。

10日は「パラスポーツ（ボッチャ）体験会」を成蹊ボッチャ部（本センター登録団体）の協力を得て実施した。

11日は防災・減災イベントを実施した。当初は防災食の試食と「帰宅困難時のシュミレーション」を参加者と考える予定で企画していたが、大型台風の接近に合わせ「台風時の備え」についてワークショップを行った。

12日はユニバーサルマナー検定3級を開催する予定だったが、台風のため延期した。

(p.14参照)

15日,16日はボランティア支援センターサポート制度登録団体TFT@seikeiが「おにぎりアクション」を行った。おにぎりアクションは、世界食糧デー・ソーシャルアクションとして行われており、おにぎりを撮影してSNSに投稿するとTABLE FOR TWOを通じてアジア・アフリカの子どもたちに給食が届く仕組みである。

17日は東京2020大会以降のレガシーを意識しワークショップ「SDGsとボランティア」を行った。

また、ボランティア支援センター学生サポーターの企画で「ペットボトルキャップ回収プロジェクト」を期間中に行い、83kgのキャップを回収し、認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会へ渡した。

6）　地域貢献事業－①

「はじめてボランティア」吉祥寺クリーン大作戦！

〈 ポイントと狙い 〉

〇ボランティアに興味があっても一歩が踏み出せない学生に対し、ボランティアプログラムを提供する。
〇ボランティア活動の楽しさを理解してもらい、今後の活動に発展させる。
〇地域で活動することで、地域の社会課題に気づく。

日　時　6月2日（日）09：00 ～ 10：00

場　所　吉祥寺駅周辺

参加者　15名

対　象　地域貢献活動に関心のある本学学生、教職員

内　容　武蔵野市環境部ごみ総合対策課が主催する「ごみゼロデー市内3駅周辺清掃」を「はじめてボランティアプログラム」と設定し参加した。



ボランティア支援センターでは地域貢献活動の1つとして「はじめてボランティアプログラム」を提供している。

「はじめてボランティア(はじボラ)」はボランティア活動に興味があっても、一歩が踏み出せずにいる学生に対し、気軽に楽しくできるボランティアプログラムを提供し、その後のボランティア活動に発展していくことを意図している。

2019年度は、はじボラ第1弾として「はじめてボランティア　吉祥寺クリーン大作戦！」と称し吉祥寺駅周辺で清掃活動を行い、第2弾として「吉祥寺花いっぱい運動」第3弾は「吉祥寺 de ボランティア」と称し吉祥寺商店街が設置している街路のプランターに春と秋の花を植え替える活動に参加した。

「はじめてボランティア　吉祥寺クリーン大作戦！」は、武蔵野市環境部ごみ総合対策課が主催する「ごみゼロデー市内3駅周辺清掃」に協力する形で学生に参加を呼び掛けた。

今回の活動には12名の学生が参加し、3班に分かれて活動を行い、楽しさをわかってもらう工夫としてそれぞれの回収量を競い合った。これは一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが行っている“スポーツGOMI拾い”を参考にしている。

参加した学生は、「ごみがあまり落ちていないと思っていた吉祥寺の町も、人目につかない場所にはごみが多く落ちていることがわかり、清掃活動の必要性がよく分かった」「学校で行ってきた清掃活動よりも楽しかった」という意見も聞かれ、学生がボランティア活動の楽しさや社会的意義を理解できたプログラムになった。

6)　地域貢献事業－②

武蔵野市スポーツボランティアへの対応

〈 ポイントと狙い 〉

○武蔵野市内で開催される各種大会等のスポーツボランティアを通して、地域貢献につなげる。

事例「わんぱく相撲武蔵野場所」に学生がボランティアとして参加

日　時　5月11日（土）

場　所　武蔵野総合体育館

主　催　武蔵野市青年会議所

（後援：武蔵野市ほか）

参加者　本学学生４名および教職員



内　容

・今年で37回目となるわんぱく相撲武蔵野場所に本学から4名の学生と教職員が呼びかけに応じて参加した。

・スポーツボランティア初心者も多かったため、事前レクチャーを本学内で実施し、主催側担当者にご来学いただいた上で活動内容などを学生とともに確認。安全かつ安心に取り組めるよう配慮した。

・わんぱく相撲の主に小学生が出場するため、わんぱく相撲取りの誘導や審判、会場設営などに取り組んだ。

・当日のお昼ご飯にはちゃんこ鍋がふるまわれ、美味しくいただきながら、地域で活動する方々などともコミュニケーションを図る機会などもつくった。

本学が所在する武蔵野市は、スポーツ施設の環境にも恵まれていることから、全国規模の大会から地域のスポーツイベントまで規模を問わず多くの活動が行われている。

そのため、スポーツイベントを支えるボランティアも年間を通して多く募集され、本センターとしては地域貢献の一環として、本学学生と教職員が参加する際のコーディネートや、情報発信に取り組んできた。

活動事例としても紹介している「わんぱく相撲武蔵野場所」では、主に武蔵野市内（小金井市内も可）に在住・在学する小学生を対象とした企画として毎年行われており、2019年度は本学から学生及び教職員がボランティア活動として参加した。

そのほか、主に武蔵野市内小中学校の体育施設等を活用してスポーツを推進する「武蔵野市スポーツ推進委員」として学生１名が委嘱を受けて活動しているほか、「武蔵野市スポーツボランティア『HANDS』」のメンバー募集情報の配信を本センターが協力し、学生・教職員へ活動を促す取り組みも行っている。

7）　ネットワーク事業－①

ユースビジョン大学ボランティアセンター全国フォーラム参加

〈 ポイントと狙い 〉

〇大学のボランティアセンターに関わる職員として研鑽を積む。
〇他大学職員との経験交流や情報交換、ネットワークの強化を図る。

日　時　9月11日（水）～ 9月12日（木）

場　所　首都大学東京
南大沢キャンパス

参加者　教職員３名

主　催　特定非営利活動法人ユースビジョン

内　容　2日間にわたり、３つの全体会・自由研究発表（３テーマ）・会場校活動紹介ならびに施設見学会・オプション企画が行われた。



全体会が２日間で３つのプログラムが行われた。

全体会１
「ともに生きる地域づくりと学生ボランティア」

全体会２
「"楽しい"の先にあるボランティア活動の価値をどう伝えるか」

全体会３
「学生スタッフ組織のチーム力を高める」

本センターのさらなる充実化を図るため、年１度開催される「大学ボランティアセンター全国フォーラム」に教職員が参加している。

このフォーラムは特定非営利活動法人ユースビジョンが主催し、全国の大学ボランティアセンターに携わる教職員が年に一度に集うフォーラムである。

2019年度は首都大学東京を会場校に、互いの経験交流や情報交換、ネットワークづくりが活発的に行われた。

今回の「自由研究発表」では３つの取り組みが紹介され、参加した本センタースタッフが分かれた参加した。テーマと発表校(団体)は次の通りである。

①オリンピック・パラリンピックにむけたボランティア支援について（明治大学)、②ＮＰＯインターンシップについて（ＮＰＯ法人アクションポート横浜)、③大学が主体となったフードバンクシステムの構築について(吉備国際大学)。

7）ネットワーク事業－②

日本スポーツボランティアネットワークに正会員として加盟

〈 ポイントと狙い 〉

○スポーツボランティアに関する情報交換や、関係団体との連携強化
○東京2020大会にむけたボランティア活動支援のノウハウ収集

一例 スポーツボランティア研修会の開催



日　時　6月13日（木）

主　催　大学6号館401教室

参加者　28名

対　象　本学学生

登壇者　○日本スポーツボランティアネットワーク
講師
（飯田弘 氏、江﨑章子 氏）

内　容
・スポーツボランティアの活動に必要な基礎的な知識を取得することを目的とした研修を行った（概論、理論、実践について、公式テキストを用いながら実施）。

・成蹊ボランティアプログラムの一コマとして行い、受講学生に対して事前ガイダンス・事後活動およびレポート提出の完了を条件に、受講料（1,500円）の全額補助を行った。

全国で活動するスポーツボランティア団体のネットワークを構築し、ボランティアに関する情報の共有や協働事業を推進することを目的に組織化された日本スポーツボランティアネットワーク（JSVN）へ、2018年度より賛助会員として加盟、2019年4月1日からは、さらなる展開を見据えて、より強固な関係となる「正会員」となった。

2019年度は、本学主催で行った特別講演会（p.8参照）の講師をJSVN理事でもある二宮雅也 氏（文教大学准教授）へ相談するため、JSVN事務局を訪問したほか、JSVNが運営する「スポボラ.net」を介してスポーツボランティアへの参加を学生に呼びかけた。

また、正会員は、自らがスポーツボランティア研修会」を主催とすることができる制度があり、実際に6月13日に開催したところ、本学学生28名が受講し、スポーツボランティアを行う上で必要な基礎知識やコミュニケーションのスキルを理論的・実践的に学ぶ機会とすることができた。

2020年3月に開催予定であった「スポーツボランティアサミット」や「正会員情報交換会」などは、新型コロナウイルス感染症にかかる対応として、そのすべてが中止となった。

本センターからも参加を予定していたため、残念ではあるが、感染リスクや社会情勢を踏まえると、やむを得ない判断だろう。

次年度以降の開催に期待し、本センターとしても積極的に活動を展開してまいりたい。

8)　その他

学生に対して学外講習会などの参加をサポート

〈 ポイントと狙い 〉

〇学生が知見を深めるため、センターが外部のセミナー参加のサポートを行う。
〇学内で意欲的に活動できる学生を育成する。

事例　大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2020への参加

日　時　2月12日（水）～13日（木）

場　所　大阪市立青少年文化創造ステーション（KOKOPLAZA）

参加者　本学学生3名、職員1名

主　催　特定非営利活動法人ユースビジョン



内　容　学生団体の運営について、講義を受講するとともに「コミュニケーションワーク」、「合意形成の体験ワーク」などのグループディスカッションを行って研鑽を積んだ。夜は隣接のユースホステルに宿泊し、交流会などで他大学の学生と親交を深めた。

ボランティア支援センターでは学生の学びや発見をより促すため、学生を外部のセミナーなどに参加させている。代表的なものは東北学院大学主催で12月に開催される「大学間連携災害ボランティアシンポジウム」とNPO法人ユースビジョン主催で9月開催の「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー」、並びに2月開催の「大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー」である。

2019年度は、「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー」と「大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー」に本学のボランティア支援センター学生サポーター（通称ボラサポ）が参加し、オブザーバーとしてコーディネーターが同席した。（ボラサポ組織は2020年度に支援センターに学生スタッフ制度を導入するための準備組織で、10名の学生で構成され、活動をしている。）

これらのセミナーは全国の大学ボランティアセンターの学生スタッフが対象で、団体運営などをグループワークや座学などで学び、１泊2日で親睦を深めるものである。

セミナーの中で特に学びがあったものとして「合意形成」があげられる。この「合意形成」はセミナーでのルールとして設定されているものである。今まで多数決で物事を決定してきた学生にとっては、グループワークで様々な意見が出る中から物事を決定していく行為は、とても新鮮に感じられるとともに、組織をまとめる上で大切であることを理解したようであった。そして他大学での活動を知ることで、奮起を促すことにもつながった。

セミナー後は参加できなかったメンバーと学習内容や他大学の情報を共有し、セミナー参加をより意義のあるものにした。

第Ⅱ章

活 動 実 績

1）2019 年度実績一覧

月日	活動内容	参加者（名）
4 月　2 日(火) ～26 日(金)	サポート制度登録団体の新勧活動に開放	－
4 月 10 日(水) ～11 日(木)	ボランティアガイダンス	累計 80
4 月 15 日(月) ～19 日(金)	2019 春のボランティアトークサロン (1) 15 日(月)東北・復興創生 (2) 16 日(火)スポーツボランティア (3) 17 日(水)海外ボランティア (4) 18 日(木)学習支援ボランティア (5) 19 日(金)環境ボランティア	(1)　14 (2)　15 (3)　23 (4)　12 (5)　13
4 月 16 日(火)	第 1 回企画執行委員会	－
4 月 17 日(水)	社会活動支援奨学金第 1 次募集開始	－
4 月 22 日(月)	成蹊ボランティアプログラム(以下、SVP)説明会	37
4 月 24 日(水) ～25 日(木)	社会活動支援奨学金説明会	26
5 月　8 日(水)	第 1 回運営委員会	－
5 月　8 日(水)	SVP「ユニバーサル社会を考える①」第 1 回 外部講師によるガイダンス	24
5 月　9 日(木)	ラグビーとボランティアとインターンシップ参加　於：首都大学東京南大沢キャンパス	1
5 月 11 日(土)	わんぱく相撲武蔵野場所　ボランティア参加　於：武蔵野総合体育館	4
5 月 13 日(月)	SVP「国際ボランティア体験」第 1 回 基礎知識の理解	15
5 月 14 日(火)	第 2 回企画執行委員会	－
5 月 19 日(日)	第 7 回 NPO まつり in 新宿 2019 視察 於：新宿 NPO 協働推進センター	1
5 月 22 日(水) ～23 日(木)	出張ボラセン	30
5 月 25 日(土)	SVP「ユニバーサル社会を考える①」第 2 回 ユニバーサルマナー検定３級	36
5 月 26 日(日) ～6 月 30 日(日)	SVP「ユニバーサル社会を考える①」第 3 回 ボランティア体験	23
5 月 29 日(水)	SVP「災害時のボランティア基礎知識」第 1 回 災害時に学生ができること	10
5 月 31 日(金)	社会活動支援奨学金第 1 次募集締切	－
6 月　2 日(日)	はじめてボランティア　吉祥寺クリーン大作戦！ ※武蔵野市「ごみゼロデー市内三駅周辺一斉清掃」に参加　於：吉祥寺駅周辺	15
6 月　2 日(日)	SVP「国際ボランティア体験」第 2 回 ボランティア実践	12
6 月　5 日(水)	SVP「災害時のボランティア基礎知識」第 2 回 防災食のつくりかた・食べ方	10
6 月　6 日(木)	SVP「スポーツボランティア入門」第 1 回 オリンピズムの基本精神	30
6 月　7 日(金)	はじめてボランティア　吉祥寺のまちづくり お花いっぱい運動！ 於：吉祥寺駅周辺 ※吉祥寺公園通り商店会フラワーポットの植え替え作業に参加	6
6 月　8 日(土)	SVP「災害時のボランティア基礎知識」第 3 回 そなエリア東京視察/被災状況の体験（学外へのフィールドワーク）　於：そなエリア東京	10
6 月 11 日(火)	第 3 回企画執行委員会	－
6 月 13 日(木)	ボランティアコーディネーター基礎研修　於：ルーテル市ヶ谷センター	1
6 月 13 日(木)	SVP「スポーツボランティア入門」第 2 回 スポーツボランティア研修会（スポーツボランティアの理論と技術）	28

月日	活動内容	参加者（名）
6月14日(金) ～9月18日(水)	SVP「スポーツボランティア入門」第3回 スポーツボランティア体験	28
6月19日(水) 20日(木)	成蹊ボランティアまつり2019　～No Volunteer No Life～ (1) 19日(水)メインイベント (2) 20日(木)NPO×成蹊 成蹊ボランティア研究会！	(1) 156 (2) 29
6月25日(火)	社会活動支援奨学金第2次募集開始	－
7月 1日(月)	SVP「子どもへの学習支援ボランティア」第1回 ガイダンス	6
7月 4日(木)	他大学職員来訪（亜細亜大学総合企画部地域交流課）	－
7月 6日(土)	津田塾大学梅五輪プロジェクト特別シンポジウム参加	1
7月 9日(火)	第4回企画執行委員会	－
7月10日(水)	SVP「子どもへの学習支援ボランティア」第2回 学習支援ボランティアの基礎理解	6
7月11日(木) ～8月31日(土)	SVP「子どもへの学習支援ボランティア」第3回 ボランティア体験	6
8月 2日(金)	ノートテイク講習会（大学ノートテイクプロジェクトでの担当として運営）	68
8月 2日(金)	リラクゼーション体験会	19
8月 5日(月) ～8日(木)	東北と未来の日本プロジェクトin南相馬 現地訪問　於：福島県南相馬市	12
8月 9日(金) ～10日(土)	ティーチャーズギャザリング出席	1
9月 2日(月) 3日(火)	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2019　於:大阪市立青少年文化創造ステーション　KOKOPLAZA	3
9月11日(水) 12日(木)	第13回大学ボランティアセンター全国フォーラム2019　於：首都大学東京南大沢キャンパス	3
9月17日(火)	第5回企画執行委員会	－
9月19日(木) ～10月 4日(金)	令和元年8月豪雨災害義援金募金活動	－
9月19日(木) ～10月 4日(金)	令和元年台風15号千葉県災害義援金募金活動	－
9月19日(木) 20日(金)	SVP説明会（ボランティアガイダンス）	累計40
10月 3日(木)	SVP「共生社会の実現に向けて」第1回 パラスポーツを支えるということ	12
10月 7日(月)	SVP「ユニバーサル社会を考える②」第1回 点字名刺づくり	28
10月10日(木) ～17日(木)	○秋のボランティアウィーク (1) 10日(木)「パラスポーツ（ボッチャ）体験会」 （SVP「共生社会の実現に向けて」第2回 パラスポーツ体験） (2) 11日(金) 防災・減災イベント (3) 12日(土) ユニバーサルマナー検定３級　※台風のため延期 (4) 15日(火) ～16日（水）おにぎりアクション (5) 17日(木) ワークショップ「SDGsとボランティア」 (6) 10日(木)～17日(木) ペットボトルキャップ回収プロジェクト	(1) 12 (2) 23 (3) ― (4) 140 (5) 5
10月11日(金) ～12月10日(火)	SVP「共生社会の実現に向けて」第2回 パラスポーツボランティア体験（現場実践）	7
10月15日(火)	第6回企画執行委員会	－
10月16日(水)	第2回運営委員会	－
10月29日(火) ～11月11日(月)	令和元年台風第19号災害義援金募金活動	－

月日	活動内容	参加者（名）
10月30日(水)	SVP「武蔵野市でボランティア実践」第1回 ガイダンス	7
10月31日(木)	社会活動支援奨学金第2次募集締切	－
10月31日(木)	SVP「ボランティアをコーディネートする」第1回 ボランティアをコーディネートするとは	10
11月　2日(土)	SVP「ユニバーサル社会を考える②」第2回 ユニバーサルマナー検定３級 ※10月12日の代替	39
11月　3日(日) ～12月10日(火)	SVP「ユニバーサル社会を考える②」第3回 ボランティア体験	16
11月　3日(日)	グランドソフトボール全国大会　体育会ソフトボール部が運営支援ボランティアとして参加　於：武蔵野中央公園	20
11月　7日(木)	「武蔵野市×吉祥寺 de ボランティア（はじボラフラワーポット） ※吉祥寺公園通り商店会フラワーポット植え替え作業に参加 ※SVP「武蔵野市でボランティア実践」第2回 ボランティア体験	8
11月12日(火)	第7回企画執行委員会	－
11月15日(金)	成蹊大学特別講演会「2020からはじまるTOKYOへ」～スポーツボランティアの役割～	75
11月20日(水)	社会活動支援奨学金第3次募集開始	－
11月25日(月)	SVP「ボランティアをコーディネートする」第 2 回 明治大学和泉キャンパス「和泉ボランティアセンター」見学	10
11月28日(木)	企業×障害者スポーツ競技団体等会合出席	1
12月　4日(水)	SVP「環境ボランティア」第1回 ごみ問題に関する基本的なレクチャー	5
12月　5日(木) ～1月30日(木)	SVP「環境ボランティア」第2回 ボランティア実践	5
12月10日(火)	第8回企画執行委員会	－
12月11日(水)	SVP「武蔵野市でボランティア実践」第3回 振り返り	7
12月11日(水)	SVP「ボランティアをコーディネートする」第3回 ボラセンの役割を考える	6
12月13日(金)	ボラセン クリスマスパーティー2019 ※SVP「ボランティアをコーディネートする」第4回 振返り を兼ねる	59
12月21日(土)	混声合唱団の吉祥寺ホーム訪問	17
1月　7日(火)	社会活動支援奨学金第3次募集締切	－
1月14日(火)	第9回企画執行委員会	－
1月31日(金)	SVP「環境ボランティア」第3回 振り返り	5
1月31日(金)	ノートテイク講習会（大学ノートテイクプロジェクトでの担当として運営）	31
2月　7日(金) ～9日(日)	市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO 2020　於：飯田橋セントラルプラザ	2
2月12日(水) 13日(木)	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2020 於：大阪市立青少年文化創造ステーション　KOKOPLAZA	5
2月22日(土) 23日(日)	全国ボランティアコーディネーター研究集会 2020　於：国立オリンピック記念青少年総合センター	3
2月25日(火)	視覚障害者のボランティア活動実践報告会出席	1
2月26日(水)	第10回企画執行委員会	－
3月13日(金)	東北と未来の日本プロジェクト in 南相馬 南相馬市成果報告会　※新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止	－
3月21日(土)	学生ボランティア活動支援連絡会参加　於：飯田橋セントラルプラザ	2
3月26日(木)	2019 年度ボランティア支援センター報告会　※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により中止	－

2）相談実績

相談（来所）件数の推移

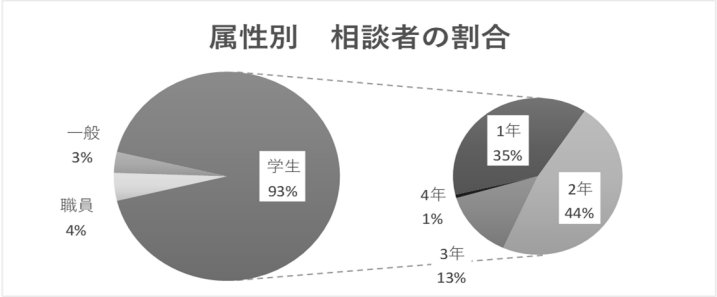
	相談件数
2015年度	104
2016年度	114
2017年度	88
2018年度	544
2019年度	3217

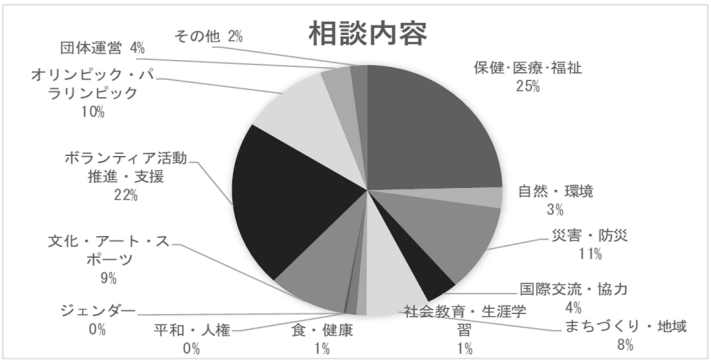
属性別相談（来所）件数

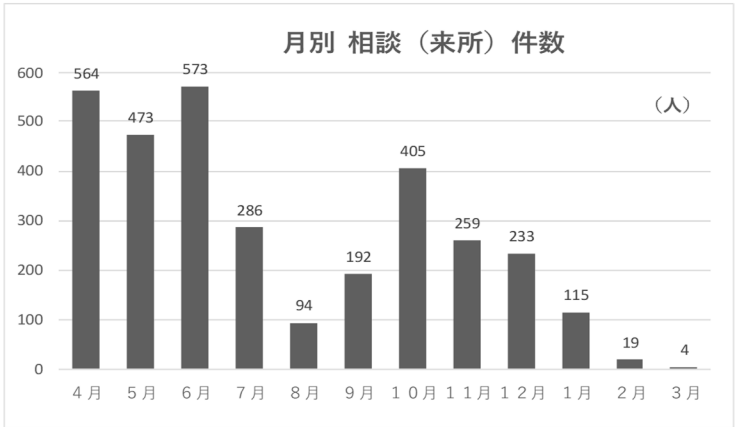
	相談件数
1年	1134
2年	1408
3年	412
4年	21
院	0
職員	138
一般	104
計	3217

分野別相談（来所）件数

		学生	教職員・一般	計
相談件数		2975	242	3217
分野ごとの相談件数	保健･医療･福祉	740	52	792
	自然・環境	62	25	87
	災害・防災	350	14	364
	国際交流・協力	114	11	125
	まちづくり・地域	218	25	243
	社会教育・生涯学習	36	3	39
	食・健康	38	0	38
	平和・人権	10	2	12
	ジェンダー	0	0	0
	文化・アート・スポーツ	291	8	299
	ボランティア活動推進・支援	657	41	698
	オリンピック・パラリンピック	328	11	339
	団体運営	105	10	115
	その他	26	40	66







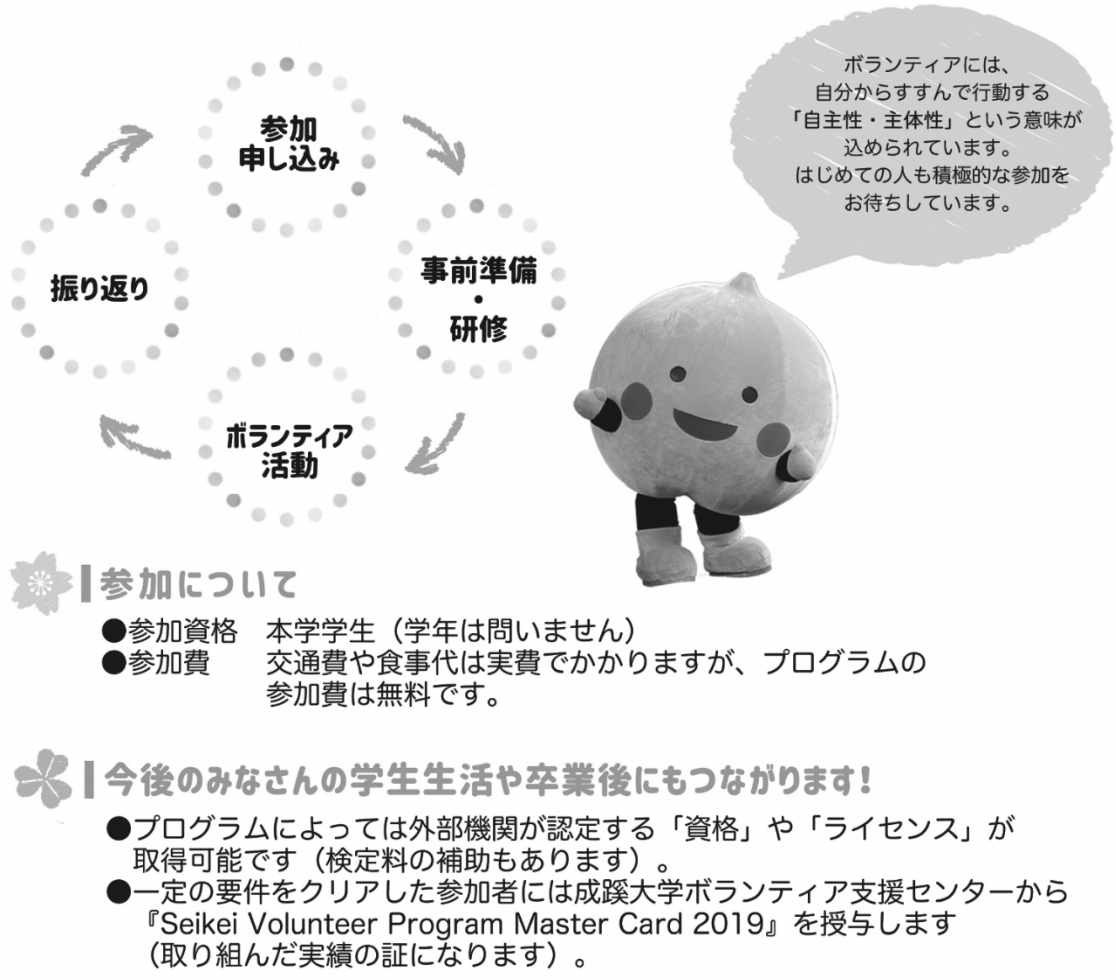
4月	564
5月	473
6月	573
7月	286
8月	94
9月	192
10月	405
11月	259
12月	233
1月	115
2月	19
3月	4

3）成蹊ボランティアプログラム（ＳＶＰ）実績報告

成蹊ボランティアプログラム（ＳＶＰ）は、成蹊大学ボランティア支援センターが従来から取り組んできたボランティア研修に加えて、事前準備、現場での実践体験、振り返りの一連の流れひとつのパッケージ化することで、学生の活動を後押しし、実践的な学びにつなげる本学独自に開発したオリジナルプログラムである。

初年度となる 2019 年度は 9 講座（10 回）を開催し、参加者総数は延べ 136 名となった。
また、成蹊ボランティアプログラムは多くの外部団体等の協力が不可欠であり、10 プログラムの実施に際しては 16 もの団体等に多大なご協力をいただき実施することができた。

【成蹊ボランティプログラムの流れ等】



※2019 年度成蹊ボランティアプログラム説明資料より抜粋

成蹊ボランティアプログラム（SUP）活動一覧（敬称略）

名　称	ユニバーサル社会を考える	参加者数	48 名
概　要	ユニバーサルマナー検定（3 級）を取得（受講）後、主に武蔵野市内の高齢者施設へ訪問しボランティア実践を行う。		
内　容	第 1 回　ガイダンス（ゲスト講師による講義／ワークショップ） 第 2 回　ユニバーサルマナー検定（3 級） 第 3 回　ボランティア体験 第 1～3 回終了後に「振り返りレポート」を提出 ※一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会が認定する「ユニバーサルマナー検定 3 級」を取得した（本プログラム修了者は受検料を全額補助）。		
協力団体	一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会、株式会社ミライロ 社会福祉法人至誠学舎東京「高齢者総合福祉施設　吉祥寺ホーム」 社会福祉法人東京弘済園「三鷹市高齢者センター　けやき苑」		
名　称	国際ボランティア体験	参加者数	12 名
概　要	日本政府とドイツ政府との国家間協定によって来日する訪日ドイツ派遣団が都内に訪れる際に、アテンドやおもてなしを行う。		
内　容	第 1 回　基礎知識の理解（座学・外部講師によるレクチャー） 第 2 回　ボランティア実践 第 1～2 回終了後に「振り返りレポート」を提出		
協力団体	特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会（文部科学省日独青少年指導者セミナー事業） Federal playbus organization of Germany, Spielmobile e.V.（ドイツ政府関係団体・交流先）		
名　称	災害時のボランティア基礎知識	参加者数	10 名
概　要	災害時に備えて防災食の作り方などを演習後、防災体験学習施設「そなエリア東京」を訪問し、災害時のボランティア基礎知識を理解する。		
内　容	第 1 回　災害時に学生ができること（座学） 第 2 回　防災食のつくりかた・食べ方（演習） 第 3 回　【学外】そなエリア東京視察/被災状況の体験（学外へフィードワーク） 第 1～3 回終了後に「振り返りレポート」を提出		
協力団体	帝商株式会社防災部 そなエリア東京（東京臨海広域防災公園）		
名　称	スポーツボランティア入門	参加者数	28 名
概　要	日本スポーツボランティアネットワークが認定する「スポーツボランティア研修」を受講後、東京武蔵野シティ FC での活動、都立特別支援学校でのスポーツ体験教室などのスポーツボランティア現場で活動する。		
内　容	第 1 回　オリンピズムの基本精神（座学） 第 2 回　スポーツボランティア研修会（スポーツボランティアの理論と技術） 第 3 回　スポーツボランティア体験（実践） 第 1～3 回終了後に「振り返りレポート」を提出 ※日本スポーツボランティアネットワークが認定する「スポーツボランティア研修会修了証」が交付された（本プログラム修了者は研修会受講料を全額補助）。		
協力団体	特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク 特定非営利活動法人武蔵野スポーツクラブ（東京武蔵野シティフットボールクラブ） 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（都立学校活用促進モデル事業）		
名　称	子どもへの学習支援ボランティア	参加者数	6 名
概　要	ゲスト講師による学習支援ボランティア研修を受講後、実際に学習支援の現場で活動に取り組む。		
内　容	第 1 回　ガイダンス 第 2 回　学習支援ボランティアの基礎理解（ゲスト講師による講義および演習） 第 3 回　学習支援ボランティア体験（現場実践） 第 1～3 回終了後に「振り返りレポート」を提出		
協力団体	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク（アスポート学習支援事業）		

名　称	共生社会の実現にむけて	参加者数	12名
概　要	障がいの有無にかかわらず楽しむことができる「ボッチャ」体験をとおして共生社会について理解を深める		
内　容	第1回　パラスポーツを支えるということ（座学） 第2回　パラスポーツ体験（ボッチャ体験会） 第3回　パラスポーツボランティア体験（現場実践） 第1～3回終了後に「振り返りレポート」を提出		
協力団体	公益財団法人　東京都スポーツ文化事業団（都立学校活用促進モデル事業） 成蹊ボッチャ部（学内団体）		
名　称	武蔵野市でボランティア実践	参加者数	7名
概　要	武蔵野市で活発に取り組まれるボランティア活動や市民による取り組みを学び、実際に市内でのボランティア活動に参加をする。		
内　容	第1回　ガイダンス 第2回　ボランティア体験（現場実践） 第3回　振り返りワークショップ 第1～3回終了後に「振り返りレポート」を提出		
協力団体	吉祥寺公園通り商店会		
名　称	環境ボランティア	参加者数	5名
概　要	練馬区立関町リサイクルセンターよりゲスト講師をお招きし３Ｒなどの講義を受けた後、その取り組みについて掲示物を作成し環境保護の推進を図る。		
内　容	第1回　ゴミ問題に関する基礎的なレクチャー 第2回　ボランティア体験（現場実践） 第3回　振り返り 第1～3回終了後に製作に取り組んだ「環境ボランティアポスター」を提出		
協力団体	練馬区立関町リサイクルセンター		
名　称	ボランティアをコーディネートする	参加者数	8名
概　要	ボランティアコーディネーターの役割について学んだ後、明治大学和泉キャンパスのボランティアセンターを訪問し、学生間の交流を図る。		
内　容	第1回　ボランティアコーディネーションとは 第2回　明治大学和泉キャンパス「和泉ボランティアセンター」見学 第3回　ボラセンの役割を考える 第4回　振り返り 第1～4回終了後にチームで取り組んだ「ボランティアマップ」を提出		
協力団体	明治大学ボランティアセンター（和泉キャンパス）		

※このうち半数以上のプログラムを修了した4名に対し、年度末に表彰を行った。

4）社会活動支援奨学金実績

	種類 ※	活動名称 団体名	活動内容	支給額 （円）
1	A	「食の不均衡改善運動」 TFT@seikei	日程：通年 活動地：大学内 活動分野：国際支援	67,000
2	B	愛知県田原市における、花によるシティープロモーション支援活動 Floraft	日程：通年 活動地：愛知県田原市、東京都内 活動分野：花卉を中心とした観光資源開発	314,080
3	A	ボッチャを通じた地域貢献活動 成蹊ボッチャ部	日程：通年 活動地：大学内、吉祥寺周辺 活動分野：地域貢献、パラスポーツ	133,000
			計	514,080

※種類…（A種）社会貢献、地域貢献に関する活動、（B種）学術的な調査研究活動

資料

- 成蹊大学社会活動支援奨学金給付規則（第Ⅲ章「資料」（p.36）参照）

5）学内募金活動実績

①活動一覧

名称	学内募金期間	募金金額（円）
令和元年8月豪雨災害義援金	9月19日(木)～10月 4日(金)	16,613
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	9月19日(木)～10月 4日(金)	18,444
令和元年台風第19号災害義援金	10月29日(火)～11月11日(月)	36,135

※期間終了後、全額を日本赤十字社に寄付

②募金箱設置場所

- ボランティア支援センター（本館1階）
- 学生部（本館1階）
- 大学図書館1階カウンター、4階カウンター
- 研究助成課（大学10号館1階、大学11号館1階）

6）発行物一覧

- 『ボランティアガイドブック2019「何かやってみたい！！」そんなあなたへ』2019年4月1日
- 『全て揃った町はどこ？』（福島県南相馬市PRリーフレット）2020年3月15日

７）報道等採録集

●成蹊大学社会活動支援奨学金を利用して活動した団体（団体名：Floraft）の活動が各種メディアに多数取り上げられました。

東愛知新聞　2020 年 2 月 6 日掲載「田原で温室のテーマパーク体験イベント」



田原で温室のテーマパーク体験イベント　02月06日(木)00:00掲載

カテゴリー：社会・経済　ツイート　いいね！0

温室をテーマパークに見立て、メークやピクニック、ブーケ作りなどが体験できるイベントが５日、花きの生産額日本一の田原市内で開かれた。なじみのない生産現場を見て、非日常感を味わいながら田原の魅力を体感してもらおうと、東京の女子大生らが企画。モニターとして招いた女子大生や一般参加者が花の楽しみ方と知識を持ち帰った。

温室のテーマパーク「温ランド　イン　タハラ」と題し、成蹊大学（東京都）経済学部３年の学生４人からなるフローラフトと市内の花農家、田原市地域雇用創造協議会が共催で開いた。

フローラフトはこれまでも、花びらを顔や手に張り付ける花メークや農家へのインタビューを掲載したフリーペーパーの制作、東京・吉祥寺で菊の節句を祝うイベントを開催するなど、花の新しい価値を創造して田原産の花のブランド化を目指して活動してきた。

この日は、モニターの女子大生10人と東三河を中心に東京や名古屋などから一般参加者27人が、同市堀切町を訪れた。田原で作られた農畜産物をふんだんに使った弁当を手に、参加者は電照菊やバラなど５カ所の温室を巡り、さまざまな催しや生産者との交流を楽しんだ。

うち、ミニブーケ作りは、摘みたてのガーベラやスプレーギク、トルコキキョウなど規格外の花々から思い思いに選び「このスイートピー、甘い優しい香りがする」などと和気あいあいとしゃべりながら、産地ならではの花の魅力を堪能。国士舘大学１年の女子大生たちは「田原は知らなかったけれど、空気はおいしいし、解放感があっていい」「今度、花を買うときは田原の花を探すと思う」などと話した。

夜には、女子大生たちが電照菊の明かりに照らされた幻想的な温室内でシアター鑑賞やイチゴ狩りなどを体験した。

フローラフトのメンバーを含むモニター14人は、１泊２日で田原市内を巡る。若者の意見を反映し、観光資源の発掘につなげるという。

フローラフトの副代表ヤング茉鈴サンドラさん（21）は「田原は海、山、農産物となんでもあるからこそ、目立った特徴が埋もれてしまっている。各ハウスで違う表情を楽しめるのが田原ならでは。花を空間として提供することで、どこにも真似できないテーマパークになると思う」と話した。

（飯塚雪）

カテゴリー：社会・経済

その他主な報道一覧

■新聞記事

毎日新聞　2019 年 8 月 21 日「いらこ DE 縁日 おしゃれに『花メーク』成蹊大学生ら田原で PR イベント 生産農家協力、体験通じ価値発信／愛知」（地方版）

中日新聞　2019 年 8 月 27 日「田原の花 メークで PR」

花卉園芸新聞　2019 年 10 月 15 日「日本酒と菊アピール『重陽の節句』イベント」

東日新聞 2020 年 2 月 4 日「女子旅と花のイベント あす温室をテーマパーク風に体験」

■テレビ報道

中京テレビ 2020 年 2 月 6 日「女子大生が企画 花の温室巡るツアー開催 愛知・田原市」

●スポーツボランティア分野



CASE 12

学生ボランティアを通じた大会運営支援

ボランティア

企業
学校法人成蹊学園 成蹊大学
【業種&事業内容等】
教育

団体
東京都
グランドソフトボール連盟

企業のニーズ・課題
学生へのボランティア機会の創出、
障害者スポーツの理解啓発

団体のニーズ・課題
大会運営のサポート

連携の成果

学校法人成蹊学園 成蹊大学では地域・社会貢献活動を推進し、支援することを目的としてボランティア支援センターを設置し、学生のボランティア活動をサポートしている。2019年5月に実施された第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」のグランドソフトボール競技関東ブロック地区予選会において、東京都グランドソフトボール連盟へ学生ボランティアをコーディネートした。

学生ボランティアは、男女ソフトボール部が担い、開閉会式や試合進行の補助、場内アナウンスなどを通じて、大会の円滑な運営を支えた。学生たちにとっても達成感や充実感を得られたことはもちろん、日頃から練習に取り組む成果も活かしたボランティアに携わることができたことは貴重な体験となり、ボランティアを通じた教育的成果も得られた。

今後の展開　グランドソフトボール競技を含む障害者スポーツの大会や関連イベント等のボランティアニーズに対して、適切なコーディネート等の支援を続けることで障害者スポーツへの理解促進を図る。

学校法人成蹊学園 成蹊大学　https://www.seikei.ac.jp/university/
ボランティア支援センター　https://www.seikei.ac.jp/university/volunteer/
グランドソフトボール　http://www.aj-gsb.com/content1.html

SEIKEI　ALL JAPAN GRAND SOFT BALL

16

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会「Supporting Practices for Para-Sports ~企業×障害者スポーツ競技団体等による障害者スポーツ振興の取組事例集　Ver.2~」（2019）に本学の取り組みが掲載されました。

第Ⅲ章

資　料

1）構成員一覧

①運営委員会

役職	所属	氏名
運営委員長	学長	北川 浩
運営委員	副学長	遠藤 誠治
		小池 淳
	経済学部長・経済経営研究科長	上田 泰
	理工学部長・理工学研究科長	坪村 太郎
	文学部長・文学研究科長	森 雄一
	法学部長・法学政治学研究科長	金 光旭
	法務研究科長	小早川 光郎
	ボランティア支援センター所長	光田 剛
	学生支援事務室　担当課長	熊崎　和宏

※「成蹊大学ボランティア支援センター運営委員会規則」（p. 35 参照）に基づいて選出

②企画執行委員会

役職	所属	氏名
委員長（所長）	法学部 教授	光田 剛
委　員（所員）	経済学部 准教授	佐々木　大介
	理工学部 准教授	千代　英一郎
	文学部 准教授	稲葉　佳奈子
	法学部 准教授	渕　史彦
	学生支援事務室　担当課長	熊崎　和宏

※「成蹊大学ボランティア支援センター規則」（p. 34 参照）に基づいて選出

③スタッフ

職位等	氏名
学生支援事務室　部長	鐘川 るみ
学生支援事務室　担当課長	熊崎 和宏
ボランティア・コーディネーター	久米 隼
	丸山 明子
	宮本 晴美
事務職員	神田 昭子
	舛田 直子

※～2019 年 5 月 30 日まではボランティア支援センター事務室だったが、学内の組織改組に伴い 2019 年 6 月 1 日から学生支援事務室へ変更。

２）関連規則

成蹊大学ボランティア支援センター規則

制　定　2014年３月５日
大学評議会
最新改正　2019年５月22日

（趣旨）
第１条　この規則は、成蹊大学学則第６条第３項の規定に基づき、成蹊大学ボランティア支援センター（以下「センター」という。）に関する基本的な事項について定める。
（目的）
第２条　センターは、成蹊大学（以下「本学」という。）における学生及び教職員によるボランティア等の地域・社会貢献並びに地域交流活動（以下「ボランティア活動等」という。）に対する意識の高揚を図り、学生及び教職員が行うボランティア活動等について支援することを目的とする。
（事業）
第３条　センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（１）学生・教職員のボランティア活動等の推進に関する企画立案、運営及び支援に関すること。
（２）学生・教職員のボランティア活動等の意識向上のための啓発活動に関すること。
（３）学生・教職員のボランティア活動等に関する教育研究活動に対する企画・支援に関すること。
（４）学生・教職員のボランティア活動等に関する広報及び情報発信に関すること。
（５）ボランティア活動等に関して学長が委嘱する事項
（６）その他センターの目的の達成に必要な事項
（構成）
第４条　センターは、次に掲げる者をもって構成する。
（１）所長
（２）所員　　若干名
（３）事務長又は課長
（４）ボランティア・コーディネーター
（５）事務職員
２　前項各号に掲げる者のほか、センターに、副所長を置くことができる。
（所長）
第５条　所長は、本学の教授のうちから、学長が任命する。
２　所長は、センターを代表し、センターの業務を統括する。
３　所長の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
４　所長が任期途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（副所長）
第６条　副所長は、本学の専任教職員のうちから学長が任命し、又は業務を命令する。この場合において、学長は、専任職員に対し、副所長として業務を命令しようとするときは、あらかじめ学園長と協議しなければならない。
２　副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるとき又は所長が欠けたときは、その職務を代理し、又はその職務を行う。
３　副所長の任期については、前条第３項及び第４項の規定を準用する。
（所員）
第７条　所員は、本学の専任教員のうちから、所長が若干名推薦し、学長が任命する。
２　所員は、センターの目的達成に必要な業務を遂行する。
３　所員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
４　所員が任期途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（運営委員会）
第８条　センターの運営に関する基本方針及び重要事項を審議するため、成蹊大学ボランティア支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会に関する規則は、別に定める。
（企画執行委員会）
第９条　センターの事業の企画執行に関する事項を審議するため、成蹊大学ボランティア支援センター企画執行委員会（以下「企画執行委員会」という。）を置く。
２　企画執行委員会に関する規則は、別に定める。
（事務の所管）
第１０条　センターに関する事務は、学生支援事務室が所管する。
（規則の改廃）
第１１条　この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附　則（2014年３月５日制定）
この規則は、2014 年４月１日から施行する。
附　則（2015年６月３日一部改正）
この規則は、2015年６月３日から施行する。
附　則（2016年４月６日一部改正）
この規則は、2016年４月６日から施行する。
附　則（2017年３月８日一部改正）
この規則は、2017年４月１日から施行する。
附　則（2019年５月22日一部改正）
この規則は、2019年６月１日から施行する。

成蹊大学ボランティア支援センター運営委員会規則

制　定　2014年３月５日
大学評議会
最新改正　2019年５月22日

（趣旨）
第１条　この規則は、成蹊大学ボランティア支援センター規則第９条第２項の規定に基づき、成蹊大学ボランティア支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の事項について審議する。
（１）成蹊大学ボランティア支援センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本方針
（２）センターの運営に関する重要事項
（３）センターの事業計画及び予算編成の承認に関する事項
（４）センターに関する諸規則の制定改廃の立案に関する事項
（５）その他委員会が必要と認めた事項
（構成）
第３条　委員会は、次の委員をもって構成する。
（１）学長
（２）副学長
（３）学部長
（４）研究科長
（５）センター所長
（６）学生支援事務室の事務長又は課長
（７）その他委員長が必要と認めた者
（委員長）
第４条　委員長は、学長をもって充てる。
（運営）
第５条　委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
２　委員会は、委員長が必要と認めた者の出席を求め、意見を聴くことができる。
（議事録の作成）
第６条　委員会に議事録を備え、議事進行の過程及び審議の結果並びに決定事項を記録する。
（事務の所管）
第７条　委員会に関する事務は、学生支援事務室が所管する。
（規則の改廃）
第８条　この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。
附　則（2014年３月５日制定）
この規則は、2014 年４月１日から施行する。
附　則（2015年６月３日一部改正）
この規則は、2015年６月３日から施行する。
附　則（2016年４月６日一部改正）
この規則は、2016年４月６日から施行する。
附　則（2017年３月８日一部改正）
この規則は、2017年４月１日から施行する。
附　則（2019年５月22日一部改正）
この規則は、2019年６月１日から施行する。

成蹊大学ボランティア支援センター企画執行委員会規則

制　定　2014年２月２６日
学部長懇談会
最新改正　2019年５月22日

（趣旨）
第１条　この規則は、成蹊大学ボランティア支援センター規則第 10 条第２項の規定に基づき、成蹊大学ボランティア支援センター企画執行委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の事項を審議する。
（１）成蹊大学ボランティア支援センター（以下「センター」という。）の事業の企画及び予算の立案に関する事項

（2）センターの事業の企画の執行に関する事項
（3）ボランティア・コーディネーターの採用に関する事項
（4）その他所長が必要と認めた事項
（構成）
第3条　委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
（1）所長
（2）所員
（3）学生支援事務室の事務長又は課長
（4）その他所長が必要と認めた者
（委員長）
第4条　委員長は、所長をもって充てる。
（運営）
第5条　委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
2　委員長が必要と認める場合は、構成員以外の者を出席させることができる。
（議事録の作成）
第6条　委員会に議事録を備え、議事進行の過程及び審議の結果並びに決定事項を記録する。
（事務の所管）
第7条　委員会に関する事務は、学生支援事務室が所管する。
（規則の改廃）
第8条　この規則の改廃は、センター運営委員会の議を経なければならない。

附　則（2014年2月26日制定）
この規則は、2014年4月1日から施行する。

附　則（2016年4月20日制定）
この規則は、2016年4月20日から施行する。

附　則（2017年4月19日一部改正）
この規則は、2017年4月19日から施行する。

附　則（2019年5月22日一部改正）
この規則は、2019年6月1日から施行する。

成蹊大学社会活動支援奨学金給付規則

制　定　2007年2月16日
大学評議会
最新改正　2019年5月22日

（趣旨）
第1条　この規則は、成蹊大学（以下「本学」という。）の学生の社会性の向上及び人格形成の促進に寄与することを目的として、学生と教員が一体となって行う社会貢献、調査研究活動等に対し給付する奨学金に関し必要な事項を定める。
2　この規則に基づいて給付する学資金を社会活動支援奨学金（以下「奨学金」という。）という。
（資金）
第2条　奨学金に要する資金は、成蹊学園奨学基金規則に定める奨学資金をもって充てる。
（奨学金の種類）
第3条　奨学金の種類は、次のとおりとする。
（1）A種　　社会貢献、地域貢献に関する活動
（2）B種　　学術的な調査研究活動
（対象）
第4条　奨学金の受給対象は、前条各号に掲げる活動を国内で行う学生又は学生等による団体とする。
2　前条の活動は、原則として本学に所属する専任教員の指導又は監督のもとに行われるものとする。ただし、正課における活動を除く。
（給付期間）
第5条　奨学金を給付する期間は、当該採用年度限りとする。ただし、次年度以降に再び出願することを妨げない。
（出願）
第6条　この奨学金の受給を希望する者又は団体は、次の書類を所定の期日までに学長に提出しなければならない。
（1）活動の種類、名称及び団体名
（2）代表者の氏名
（3）活動計画書
（4）予算計画書
（5）当該活動の指導又は監督を行う専任教員からの推薦書
（選考）
第7条　奨学金の受給者及び団体（以下「受給者」という。）は、ボランティア支援センター企画執行委員会（以下「委員会」という。）が選考し、学長が決定する。
（給付数）
第8条　採用数は、1年度あたり20件以下とする。
（給付額）
第9条　給付額は、活動計画書及び予算計画書に基づき決定する。
2　給付額は、1件あたり20万円を上限とする。ただ

し、学長が特に認めた場合には、40 万円まで増額給付することができる。

（誓約書の提出）

第１０条　受給者は、所定の誓約書を、所定の期日までに当該活動の指導又は監督を行う専任教員を経て学長に提出しなければならない。

（奨学生の責務）

第１１条　受給者は、所定の期日までに当該活動に関する報告書を提出しなければならない。

（異動報告）

第１２条　受給者は、次の各号のいずれかに該当するときは、所定の異動報告書を速やかに学長に提出しなければならない。

（1）当該活動の指導又は監督を行う専任教員を変更するとき。

（2）奨学金を受ける団体の責任者を変更するとき。

（奨学金給付資格の取消し）

第１３条　受給者が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は、委員会の議を経て、奨学金の給付資格を取り消すことができる。

（1）個人の場合、休学、退学し、又は学則による除籍若しくは懲戒処分を受けたとき。

（2）第 11 条に定める責務を果たさないとき。

（3）正当な理由がなく、前条に定める異動報告を怠ったとき。

（4）その他委員会が活動として適当でない行為があったと認めたとき。

（奨学金の返還）

第１４条　学長は、受給者が前条の規定により年度の途中においてその資格を取り消されたときは、既に給付した奨学金の全部又は一部を返還させることができる。

（事務の所管）

第１５条　奨学金に関する事務は、学生支援事務室が所管する。

（規則の改廃）

第１６条　この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附　則（2007 年２月 16 日制定）

この規則は、2007 年４月１日から施行する。

附　則（2015 年１月 14 日一部改正）

この規則は、2015 年４月１日から施行する。

附　則（2019 年５月 22 日一部改正）

この規則は、2019 年６月１日から施行する。

成蹊大学ボランティア支援センター　年次報告書 2019

2020 年 12 月 1 日　発行

発　行　　成蹊大学ボランティア支援センター

住　所　　東京都武蔵野市吉祥寺北町３－３－１

電　話　　0422-37-3448

ＵＲＬ　　https://www.seikei.ac.jp/university/volunteer/

印　刷　　株式会社ワコー

SEIKEI 成蹊大学

ボランティア支援センター

